

# 共同研究事例Ⅱ

研究者  
富士通(株)

研究期間  
平成29(2017)年度～

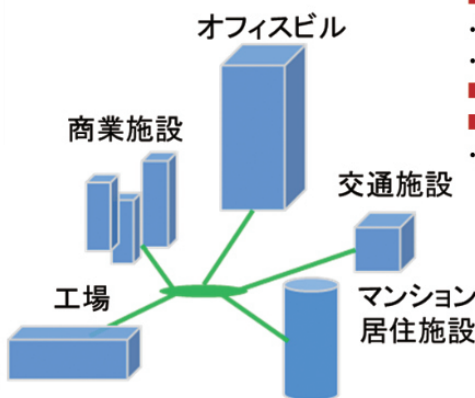
## 概要

- 我が国は2030年度に温室効果ガスを2013年度比で26%削減することを目指しており、その達成には、再エネの更なる導入促進等が必要です。
- この研究では、環境・地域特性に合わせた地域連携エネルギーシミュレーションを確立し、現状個別に取り組んでいる省エネ、創エネ及び再エネ利用を一定の地域内で平準化することによる地産地消の可能性について研究を行っています。

# 環境エネルギーシミュレータを用いた再生可能エネルギー地域連携モデルの研究

## エネルギー地域連携モデルの構築事例

### エネルギーの需給平準化ライン



- エネルギー需給の平準化
  - ・夜間・昼間のアンバランス解消
  - ・平日・休日のアンバランス解消
- 再生可能エネルギー使用効率改善
- エネルギー地産地消化
  - ・FITに依存しない再生可能エネルギー導入の仕組み作り(欧州モデル)

### 川崎市の持つ資源

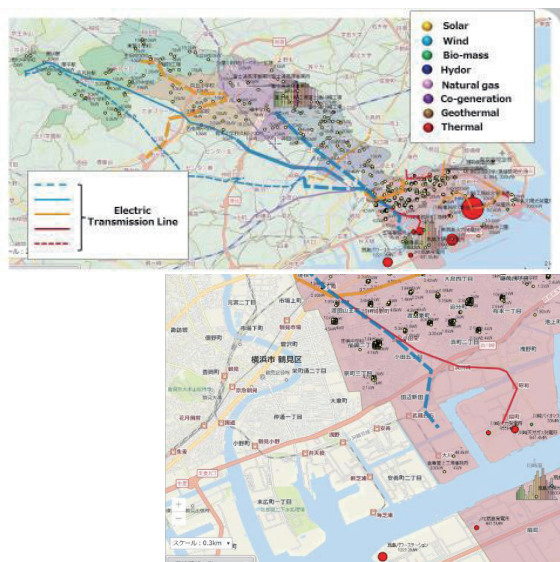
- 市内再生可能エネルギー設備等の情報
- 再生可能エネルギー導入促進に係る知見

### 共同研究者の持つ資源

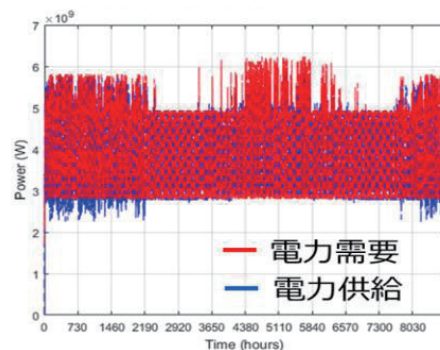
- 情報の高速処理技術
- シミュレーション技術
- 先端研究者とのネットワーク

## 2017年度 再エネデータベースの構築と可視化

市内の再エネ設備情報等を収集し、データベースを構築するとともに、それらを可視化することで、エネルギーの需給バランスを検討する際に活用できるようにしました。また、市内の気象情報等を考慮し、電力エネルギー需給に関するシミュレーションを行いました。



川崎市内の電力供給シミュレーション



川崎市内のヒートポンプ電力供給シミュレーション

